

国語

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

ア	イ
（思考力、判断力、表現力等） 自分の伝えたいことを、表現や構成を工夫しながら正確に伝えられる文章が書けるようになる。	（知識及び技能） 3年間かけて常用漢字の大体を読めるようになり、また学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で使えるようになる。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全体的には、物を書くことに抵抗のない生徒が多いが、型にはまった文章を書く生徒が多く、表現や構成の工夫は少ない。ア</li> <li>• 小学校5～6年の漢字の定着に課題がある生徒が多い。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一つの作品の終了ごとに、感想を書かせるなど、日頃から書く機会を増やしていく。ア</li> <li>• 授業で行っている漢字の小テストを繰り返し実施し、必要に応じて再テストや追加の課題を提示する。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 後期</li> <li>イ 前期～後期</li> </ul>	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 作文の内容に具体性を持たせ、相手が理解できる内容を書くことに課題がある。ア</li> <li>• 漢字の読みについては問題がないが、書く能力については定着に課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 相手意識と目的意識を明確にし、推敲を通して文章をより良くする場を設定する。ア</li> <li>• 前期は小学校の学習範囲のプリントを用い、後期は高校入試レベルの問題演習を行う。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 後期</li> <li>イ 前期～後期</li> </ul>	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 目的や意図に応じて構成を工夫して書く力に課題がある。ア</li> <li>• 個人差はあるものの全体を通して書く能力について課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 200字作文、批評文を書く活動の中で相手意識と目的意識を踏まえ、構成について交流を行う。ア</li> <li>• 週に1度漢字テストを実施し、必要な生徒には再テストや追加課題を課す。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 後期</li> <li>イ 前期～後期</li> </ul>	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 互いの考えを共有し、助言し合う活動に活用する。
- 発表（個人・グループ）において資料の提示等に活用する。
- 情報の収集をしたうえで文章を書いてまとめる授業に活用する。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 授業ごとに授業プリントを作成する。
- 単元の最初に目標や評価、授業の流れについて説明する。
- 振り返りの記述を共有することでより深い学びへと促す。
- シラバスを活用する。

社会

社会科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
社会的事象の基礎的・基本的な知識の理解と定着を図るとともに、様々な情報を理解・活用し、まとめる技能を身に付ける。	社会的事象の意味や意義・特色を多面的・多角的に考察し、その内容を選択・判断、説明・議論・まとめることができる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象への興味・関心は高い。他方、知識の定着方法がまだ身に付いていないことが課題である。ア</li> <li>・社会的事象の意味や意義、特色を資料から読み取ることはできるが、その内容を適切に表現することについて、まだ課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の内容だけでなく、方法についても授業内で良い例を紹介する。また、ワークの取り組み方を適宜確認しつつ、個別にも指導を行う。ア</li> <li>・授業で、資料に基づいて考えたことを文章で表現するワークに取り組み、データに基づく思考・判断の方法、表現の方法の学習を行う。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験前後の期間</li> <li>・学期ごと1～2回程度</li> </ul>	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や試験前の学習に対して意欲的に取り組んでおり、学んだ内容を知識として定着させようとする姿勢がみられる。ア</li> <li>・身に付けた知識を活用し、それを基に思考・判断することについてはまだ課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験だけでなく、確認テストなどを実施することを通して、こまめに知識を定着させる動機づけを行う。ア</li> <li>・授業内で、知識や資料に基づいて思考・判断する機会を設定し、その際表現の方法についても学習する。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一か月に一回程度</li> <li>・学期ごと1～2回程度</li> </ul>	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習への主体的な意欲や基礎的・基本的な知識・理解の向上が図れているが、その定着に二極化が見られることが課題である。ア</li> <li>・社会的事象を多面的・多角的に考察したり、まとめる力もついてきているので、今後も継続して実践していく。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要事項の復習・確認を授業やプリントで繰り返し学習することにより、基礎的・基本的な知識や技能の定着をさらに図っていく。ア</li> <li>・プリントやふり返しシート等を活用し、資料を考察したり、まとめる力の更なる向上に取り組んでいく。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間</li> <li>・毎時間</li> </ul>	

**■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について**

- ・統計資料、動画等のデジタル資料を活用する。
- ・学習課題のまとめ、発表（個人・グループ）等に活用する。
- ・情報の収集等により情報リテラシー（情報を正しく活用する力）の育成を図る。

**■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について**

- ・授業ごとに授業プリントを作成し、活用する。
- ・単元ごとのふり返しシートを作成し、活用する。
- ・シラバスを活用する。

数学

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

<p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span> 知識及び技能</p>	<p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span> 思考力、判断力、表現力等</p>
<p>数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付ける。</p>	<p>数学を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表現する力を身につける。</p>

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な計算は身に付いている生徒が多い。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span></li> <li>・文章題に苦手意識をもつ生徒が多く、問題から立式することが難しい。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時の最初に復習問題を取り入れることで、基本的な知識・技能の習得を図る。</li> <li>・小テストを行い、基本的な知識・技能が身についているかを図る。</li> <li>・単元の終わりに、学んだことをワークシートに記述させ、単元の内容を自分で整理させる。</li> <li>・文章題では、立式する前に図や表を活用して全体の見通しをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時</li> <li>・習熟の程度に応じて</li> <li>・単元ごと</li> </ul>	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な内容理解が十分でない生徒がいる。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span></li> <li>・文章問題や発展的な課題への苦手意識が強く、考えを数学的に表現することが難しい生徒が多くいる。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の内容から繰り返し問題を解かせることで、基本的な知識・技能の習得を図る。</li> <li>・単元の導入を工夫することで興味をもたせる。</li> <li>・説明し合う活動を通して、的確な表現方法を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時</li> <li>・単元ごと</li> <li>課題演習の毎時間</li> </ul>	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素早く計算処理を行うことができる。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span></li> <li>・事象を数式で表現したり、数式が表している内容を言葉で説明することが苦手な生徒がいる。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習の時間にタイマーを活用する。</li> <li>・相互に説明し合う活動を授業で行う。また、適宜グループワークを行い、多様な考えを共有し、数学的に表現することのよさを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時</li> <li>・習熟の程度に応じて週1回程度</li> </ul>	

<p><b>■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</b>                  タブレットを活用し、生徒のノートやワークシートを写し、課題解決の過程を全体で共有する。それを基に、授業のねらいに沿って、生徒の考えから練り上げ、考察を深める。                  また、Dマークコンテンツを活用し、図形を動かすなどして事象を視覚的に捉え、考察をする。</p>	<p><b>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</b>                  授業の最初に簡単な小テストを行い、前回までの学習内容を振り返る。また、課題解決の手だてとして、習熟の程度に応じて全体で見通しを持たせる。まとめとして自己評価カードを記入することで本時の学習内容を振り返る。</p>
---	---

理科

理科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解する。</li> <li>科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験を行い、得られた結果を分析して解釈する。</li> <li>科学的根拠をもとに論理的に表現することができる。</li> </ul>

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念や原理・法則について、生徒によって定着の差が見られる。ア</li> <li>科学的根拠をもとに思考・表現する力に課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項について、毎時間初めに振り返りや小テストを行い、定着を図る。</li> <li>実験結果から考察する場面の設定や単元末に思考の流れを確認し、表現する課題に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時</li> <li>実験後、単元末</li> </ul>	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念や原理・法則について、生徒によって定着の差が見られる。ア</li> <li>抽象的な概念について、モデルを用いて思考する力に個人差が見られる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を比較し、そこから規則性や法則を、振り返りシートやテストを行うことで理解させる。</li> <li>個々の実験結果を原理や法則に結びつけて思考するような場面を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>随時</li> <li>実験前後</li> </ul>	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念や原理・法則については理解している生徒が多い。ア</li> <li>実験の見通しをもつことや実験結果から科学的根拠をもとに論理的に思考・表現することに課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念や原理・法則をもとに発展的に考える課題を多く取り入れる。</li> <li>自然の事物現象においての課題を共有し、実験の見通しを確認・共有する。また、事後に生徒が科学的根拠をもとに論理的に説明や表現する機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時</li> <li>実験前後</li> </ul>	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 1年 インターネットや動画視聴に活用
- 2年 インターネットや動画視聴に活用
- 3年 インターネットや動画視聴に活用、実験結果の記録共有

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 1年 単元始め：身のまわりの事象から学習内容に結びつけ、学習意欲を育む  
単元末：振り返りシートの活用
- 2年 単元始め：身のまわりの事象から学習内容に結びつけ、学習意欲を育む  
単元末：振り返りシートの活用
- 3年 振り返りシートの実施（毎時）、定期テストの振り返り

音楽

音楽科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能

イ 思考力、判断力、表現力等

創意工夫を生かした表現で歌唱するために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、積極的に歌唱する力を身に付ける。

曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	授業に対して積極的に取り組む。しかし、歌唱の際、全体的に声量が出にくいことがある。ア	歌唱の前に、発声練習を重点的に行い、声量を上げることに力を入れる。また、定期的に小グループに分かれて歌の発表をさせることで、課題を見つけ、改善していく楽しさを感じさせる。	毎時 発表は月1回程度	
第2学年	授業に積極的に真剣に取り組んでいる。声量が出にくく、歌を歌い始めるまでに、時間がかかることがある。ア	パート練習では、振り返りを元にリーダーが中心となって本時の課題を決め、生徒自身で目標を立てる。歌い始めるまでの時間を生徒に提示する。	毎時	
第3学年	授業中の発言も多く、とても意欲的に取り組み、音楽活動を活発に行うことができる。他者の意見をふまえて、自分の考えをまとめることに課題がある。イ	生徒が発言しやすいよう、個人で意見を考えた後、グループで話し合い、改めて個人で考え直す活動を入れる。ヒントカードを活用する。	単元ごと	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

タブレットを活用し、歌唱や合唱の録音・録画を撮り、自ら課題を発見し、改善できるようにする。また、タブレットを通して成果を全体で共有する。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

振り返りカードを用い、授業ごとに目標を明確に示すとともに、成果や改善点を生徒自ら考え、次時につなげる。また、授業の終末では、本時の振り返りやまとめをし、次時の授業内容を伝えることにより、見通しをもてるようにする。

美術

美術科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

**ア 知識及び技能**

**イ 思考力、判断力、表現力等**

対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表している。

主題を生み出し豊に発想し、構想を練ったり、美術に対する見方や感じ方を深めたりしている。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的なデッサンや物の見方等に課題がある。 ア</li> <li>基本的な表現技法において、技量の個人差が大きい。 ア イ</li> <li>技能面について課題がある。 ア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもった制作ができるように、工程をしたプリントを準備、配布する。 ア</li> <li>視聴覚教材を用いた授業を行う。 イ</li> <li>制作に関するアドバイスをを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の始め</li> <li>適宜</li> </ul>	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術に関心・意欲をもって取り組む生徒が多い。 ア イ</li> <li>個々の表現技能に差が見られ、作業が遅れてしまう生徒がいる。 ア イ</li> <li>技能、思考、表現の面に課題がある。 ア イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。 ア</li> <li>タブレットを用いて、発想や構想を深める。 イ</li> <li>制作に関するアドバイスをを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の始め</li> </ul>	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作に、関心を持って取り組んでいる生徒が多い。 イ</li> <li>個々の表現技能に差が見られ、作業が遅れてしまう生徒がいる。 ア イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。 ア</li> <li>タブレットを用いて、発想や構想を深める。 イ</li> <li>制作に関するアドバイスをを行う。</li> </ul>	各単元の始め	

**■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について**

課題の発想や構想の段階で、自分のイメージを具現化する事に活用したり、具体的に表現したい物を調べたりするために活用する。(2,3年)

**■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について**

作品のコンセプトを明確にして、自己の作品を振り返る(1, 2, 3年) 作品展の相互鑑賞により、発想や表現方法を学ぶ。(1, 2, 3年)

保健体育

保健体育科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
健康・安全についての理解を深め、生涯にわたり健康を保持増進し、運動技能を習得させ、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。	主体的・協働的な学習活動を通して、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る方法を探究する力を育成する。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	ア運動が苦手だと感じる生徒は、授業内での練習回数が少なく、50m走やハードル走等の記録が伸びていない。また、定期考査の結果から、知識の理解が十分でないと感じる。運動に関心がある生徒が多い一方で、イ消極的でグループでの対話的な学習が進まない生徒も多い。	ア学習カードを工夫し、計測値などの具体的な目標を持たせ、自己の記録の到達度を確認しながら学習を進められるようにする。イ運動に関心もてるように、どのような技術をどのようにして身に付けたいかを考えさせ、ペアなどの少人数で学習に取り組みさせながら対話の場を増やし学習意欲を促す。	通年を通してどの運動領域についても行っていく。	
第2学年	ア体力や運動能力に優れている生徒が多く、積極的に授業に取り組み体力テストで成果を上げている。イ一方で運動が苦手と感じている生徒はグループ学習に消極的で、互いに助言をしたり、積極的に課題解決の方法を見つけることができない。	ア体育理論や体力を高める意義を理解させることでさらなる体力や運動能力の向上を図る。イ運動の苦手な生徒には苦手意識をなくすために小さなステップで段階的に運動課題を決め、達成させることで自信をつけさせるようにする。	通年を通してどの運動領域についても行っていく。	
第3学年	ア走力の向上に比べ、握力、投力が弱いことが体力テストからわかる。球技は得意な生徒が多く、積極的に技術を追求するが、マット運動は体が硬く、苦手意識が高い。また、イ技術の高い生徒と運動に苦手意識を持つ生徒と一緒に学習する中で、どのように「深い学び」に取り組めるかが課題である。	ア握力、投力を高めるため、キャッチボールを実践したり、体の軸を意識させる「コーディネーショントレーニング」などを取り入れる。マット運動では、技の段階表などを作成して難易度の低いものから高いものへと学習をすすめていけるように提示し、意欲向上を図る。イ互いに助言できるように学習カードに技術のチェック項目を具体的に入れて、助言がしやすいように工夫する。	通年を通してどの運動領域についても行っていく。	

<p>■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最終的に到達すべき知識・技術を端末で調べる。</li> <li>グループ学習において、互いの技術を録画して比較、分析を行う。</li> <li>ダンスなど自分たちの成果を端末を活用し、録画して発表したり、他のグループの作品を鑑賞する。</li> </ul>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学びの段階的手段や、考えるポイントを明確にした学習カード作成</li> <li>学習カードを使用したグループ学習の取り組みにより、仲間と考えの過程や気づきを共有させ、助言し合い、それを記録しながら学習の過程を振り返らせることで「対話的で深い学び」に向かう力の育成を図る。</li> </ul>
--	--

技術・家庭

技術・家庭科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能

イ 思考力、判断力、表現力等

生活や技術に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活と結びつけることができる。

生活から課題を見付け、身に付けた知識を基に解決策を考え実践する。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>身に付けた知識や技能と、生活との結びつきが理解できていない。ア</li> <li>技能に対する理解と習得の差が大きく、個別な支援が必要な生徒がいる。ア</li> <li>自ら考え課題へ取り組む創造力や工夫する力に課題がある。イ</li> <li>説明文から実際の作業などをイメージすることができない。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活からでる課題の中から知識を抽出し生活との結びつきを印象づける。ア</li> <li>実践的・体験的な活動を取り入れ、知識と技能が有機的に結びつくようにする。ア</li> <li>生徒の特性に合わせて指導方法を工夫し、映像などを用いて理解を促す。ア</li> <li>自分の考えをまとめ、お互いに共有できる場を設ける。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間ア</li> <li>毎時間イ</li> </ul>	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>身に付けた知識や技能と、生活との結びつきが理解できていない。ア</li> <li>技能に対する理解と習得の差が大きく、個別な支援が必要な生徒がいる。ア</li> <li>自ら考え課題へ取り組む創造力や工夫する力に課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活からでる課題の中から知識を抽出し生活との結びつきを印象づける。ア</li> <li>実践的・体験的な活動を取り入れ、知識と技能が有機的に結びつくようにするア</li> <li>自分の考えをまとめ、お互いに共有できる場を設ける。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間ア</li> <li>毎時間イ</li> </ul>	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>身に付けた知識や技能と、生活との結びつきが理解できていない。ア</li> <li>技能に対する理解と習得の差が大きく、個別な支援が必要な生徒がいる。ア</li> <li>自ら考え課題へ取り組む創造力や工夫する力に課題がある。イ</li> <li>既習事項を活用して、計画的に作業などを進められない。ア・イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活からでる課題の中から知識を抽出し生活との結びつきを印象づける。ア</li> <li>自分の考えをまとめ、お互いに共有できる場を設ける。イ</li> <li>既習事項を振り返る場を設け、未来の生活を想像させることを通して、よりよい生活のための見方・考え方に気付かせる。ア・イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間ア</li> <li>毎時間イ</li> <li>毎時間ア・イ</li> </ul>	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 1年 タブレット端末を使用して意見共有をし、考えの深化を促す
- 2年 タブレット端末を使用して意見共有をし、考えの深化を促す
- 3年 タブレット端末を使用して意見共有をし、考えの深化を促す

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 1年 振り返りシートを活用した毎時間の振り返りの実施
- 2年 振り返りシートを活用した毎時間の振り返りの実施
- 3年 振り返りシートを活用した毎時間の振り返りの実施

英語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能

イ 思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションの中で、基本的な語彙や文構造を活用する力や、自らの考えを相手に伝えるための「発信力」を養う。

聞くことや読むことを通じて得た知識を、自らの体験や考えと結びつけながら活用する、「話す力」「書く力」を養う。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	英語学習に関心はあり、授業内でも意欲的に取り組もうとしている。しかし、基礎的な理解力や分析力に課題がある生徒がいる。	話し言葉と書き言葉の違いを意識できるよう、スピーチ原稿の形で文章を作成し、発表する機会を設定する。また、自分の考えを発表する場面を多く設けられるような授業展開を考える。 ア 口頭、ICT、紙面にまとめた発表など、正確な表現で発表しきる機会を多く取り入れ、達成感を味わわせる。 イ 英語を使って目標達成遂行できるようなタスクを与える。生徒は、コミュニケーションの目的・場面・状況で、課題を達成するための内容を考え、言葉を選んで判断して表現し、解決させる活動を行う。	単元終了毎のプリント添削、会話テスト、音読テスト実施時。自己紹介(9月)、学校紹介(2月)	
第2学年	英語学習に関心を持ち、授業だけでなく家庭学習にも意欲的に取り組んでいる生徒が多い。苦手な生徒も、QRコードやロイロノートを活用しながら、能力向上に取り組んでいる。ア 伝えたいことは持っているが、どの表現方法や単語を使って表現すればよいか分からない生徒がいるため、ICT 機器も活用しながら、表現する力の育成に取り組んでいく。イ	ペア活動、グループ活動を取り入れることで、不得意な生徒も仲間に支えられながら学習できるよう工夫する。ア どのような内容も、簡便な表現で表すことができることを、継続して指導する。イ 生徒が表現したこと(筆記したものや録音したもの)を繰り返し添削し、定着を図る。イ	単元終了毎のプリント添削、会話テスト、音読テスト実施時。「職場体験レポート」(11月)「Show and Tell」(1月)スピーチ発表。	
第3学年	英語学習に意欲的に取り組む生徒が増えている。家庭学習では自分で音声を確認するなど取り組んでいる。ア 英単語や文法事項など知識は定着してきているが、文章を読んで端的に理解する力が今後求められる。音読や速読などを通して読む力をつける必要がある。イ テーマやトピックに合わせて自分の考えや意見などを即興で発信する力に課題がある。ペアワークやディスカッション等を通して、即興性を養っていく。	ア イ 問題に対する自分の考えを用意し相手に伝えることで「発信力」を養っていく。感染予防に配慮したうえでペアワークやスピーチを計画していく。また、ICT を活用し自己表現の幅を広げていく。	単元終了毎のプリント添削、会話テスト、音読テスト実施時。show&tell実施(検討中)	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- ・段階を踏んだ単語テストを作成し、授業開始前の5分を使って、各自の到達段階に応じて取り組ませる。
- ・作成したスピーチや教科書の音読録音を提出させ、個別の指導を行う。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・宿題カード、自己評価カードの記入により、本時のねらいの再確認と、次時の予定について確認し、見通しを持って学習できるようにしている。授業内容を振り返るための自己評価カードでは、教員が各生徒にコメントするとともに、質問があった点や、面白い学習アイデアなどを、次時に全生徒にフィードバックしている。